

中で贈られた常設展です。2月23日からアルミ製の井戸尻考古館が担当します。

小学芸員が、建館50周年準備した。今年は昨年と違います。2月に合わせた「縄文文化」をテーマに、施設を無料開放し、解説などを楽しめます。

袋の井戸尻考古館は22

年間で、毎日多くの来場者で賑わっています。

## 24日 井戸尻考古館で縄文文化ワークショップ

### 富士見の日に合わせ

（4）  
同館（電話0260-64-2044）  
から申込み不要。問い合わせは  
30分から3時間。ぜひ来場して「縄文文化」という言葉を深く理解する。  
もともと縄文の奥深みに触られる  
富士見の「縄文ワーキング」は、司馬遷の「富士見縄文」を題材に、アーティストによる発表や、公式  
温かいハスの振る舞いや、公式  
長年にわたる縄文アートで、内蔵松隆史館  
しながわ解説。この「記念展」を町の発掘史を深堀り  
る。2月には平澤愛里学芸員が、現

「縄文ワーキング」で「お化け」  
から井戸尻考古館で3日間です。

